

生活文化について理解を深めることができた。

5年生の「山の学習」では、1年生から4年生までの「元宇品探検」「太田川探検」の学習を基に、太田川源流域の自然環境について系統的に理解を深めることができた。

6年生の「旅の学習」では、沖縄本島北部の伊江島において、伊江島大自然の中で暮らす島の人々と触れ合い、沖縄の自然や文化、琉球の歴史に触れることができた。

② 平和に係わる学習

5年生では、平和公園での碑めぐりを行ったり、被爆体験を聴いたり、平和記念資料館を見学したりして、平和の大切さに気づき、平和を継続させていくための努力について考える機会となった。

6年生では、「旅の学習」の中で、ひめゆり平和記念資料館や糸数アブラチガマを見学したり、語り部の人たちから戦争体験を聴いたりすることで、これまで広島で学んできた平和学習と繋げ、生命の大切さや平和の尊さを考える機会となった。

③ 縦割り班による活動

1年生から6年生までの全学年の児童を32の縦割り班に分け、日々の清掃活動を行ったり、お迎え遠足や縦割り弁当などの活動を行ったりした。

縦割り班では、6年生がリーダーとなって、学年に応じた役割を与えたり、異なる学年の児童と一緒に遊べることを考えたりすることで、個々の事情や考えの違いに配慮しながら、全員で力を合わせて班としてのまとまりを創り出していくことができた。



① 海の学習（第4学年）



① 山の学習（第5学年）



① 旅の学習（第6学年）



③ 縦割り班による活動

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

--

② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

環境や平和などの横断的・総合的な課題を、各教科や道徳、総合的な学習の時間、外国語活動、特別活動において取り上げ、系統的に学習を進められるよう教育課程を作成している。低学年においては、生活科や総合的な学習の時間を中心に、身近な自然や地域社会の中での様々な体験を通して、自分を取り巻く環境に対する豊かな感性や関心を培うことを目指している。中学年、高学年と学年が進むに従い、課題を発見する力、協力して課題を解決する力を育成していくことを目指している。
--

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

全ての教員が学校経営方針や求める子ども像などを踏まえたうえで、具体的な取り組みについて、ねらいや内容を共通理解し、実践するようにしている。また、学年間の連携や教科間の連携を積極的に図ることにより、6年間を見通した取り組みや教科横断的な学習を目指している。

広島湾や広島湾にそそぎ込む太田川を学習素材に取り上げ、海辺や川の自然や生き物を調べ、その特徴をまとめる探究的活動を、1年から4年まで継続して行っている。この学習を、3年から6年で行う宿泊学習に繋げている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/

教育活動全体について、学校内部で行う学校評価を行うとともに、附属学校園評価委員会や学校評議員会による外部評価も行っている。

単式学級、複式学級、特別支援学級の3つの学級編成形態を有している特色を活かした教育活動を行い、児童の主体性、多様性、協働性が培われていることが評価されている。

外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

本校の教育実践や教育研究を、広島大学附属東雲中学校と共同開催する東雲教育研究会において発信している。また、複式教育に特化した複式教育授業座談会や経験の浅い教員を対象とした学校公開などを行い、日常の児童の姿を通して、取り組みの成果を発信できている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)

沖縄県の伊江島観光協会との交流により、6年生で実施している「旅の学習」において民泊を行い、家庭的な雰囲気の中で沖縄の自然や生活文化、歴史を、学ぶことができている。児童が、多様な文化を体験したり、平和について考えたりすることで、将来においてよりよい社会を創造していく当事者となる実感がもてることを目指している。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

ユネスコスクールとの交流はできていない。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

1年から6年までの全児童を32のグループに分けてつくった縦割り班による活動を、年間を通して実施していることにより、上の学年が下の学年の支援をすることで、リーダー性が育っている。また、下の学年の児童にとっては、目標となる姿を身近に見ることができている。

自分の周りには、さまざまな人がいて、お互いを認めながら、協力して課題を解決していくことを、体験を通して身につけることができている。

(3) 平成30年度の活動計画

「国際社会の中で主体的に生きる心豊かな人間の育成」を学校理念として、ESDを共生社会に生きる主体として自立的・協働的に学ぶことと捉え、ESDの実践を通して逞しい体力、創造的な思考力・判断力・表現力の育成を目標とした取り組みを行う。

具体的には、環境、平和・人権を柱に、①自然環境に係わる学習、②平和に係わる学習、③縦割り班による活動を行う。

自然環境にかかわる学習については、広島湾や広島湾にそそぎ込む太田川を学習素材に取り上げ、海辺や川の自然や生き物を調べ、その特徴をまとめる探究的活動を、1年から4年で行う。

この学習を、4年の「海の学習」、5年の「山の学習」に繋げ、自然と人間のかかわりについて理解を深めさせることを目指す。

戦争や被爆の実相について学び、命の尊さを知り、平和を願う心を育てるとともに、平和な社会を築こうとする意欲や態度を育てることを目指す。

1年から6年までの全児童を32のグループに分けてつくった縦割り班による活動を年間を通して実施する。